

二〇二四年度

入学試験問題

国語

最初に、以下の注意事項をよく読んでください。

- 一、問題冊子は監督者の指示があるまで開いてはいけません。
- 二、監督者の指示により、最初に問題冊子の表紙と解答用紙の、指定されたらんに受験番号と氏名を記入してください。
- 三、試験問題の内容に関する質問には応じません。それ以外の用事があるときは手をあげてください。
- 四、受験中気分が悪くなったときは、監督者に申し出てくださ
い。
- 五、字数に制限のある問題では「、」「や」「。」などの記号も一
字と数えます。
- 六、解答用紙は持ち帰らないでください。

受験番号			
7			

氏名

〔二〕 次の——部のカタカナを、漢字に改めなさい。

- ① ゲキジョウでリハーサルを行う。
- ② 天気予報でコウスイ確率を確認する。
- ③ 有名なハイユウが主演をつとめる。
- ④ カイダンを静かに上る。
- ⑤ 編集したザツシが書店にならぶ。
- ⑥ 出発ジコクを決める。
- ⑦ セツソウのない行動をとる。
- ⑧ 畑の土をタガヤす。

〔二〕 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

著作物利用のため本文は削除します

著作物利用のため本文は削除します

著作物利用のため本文は削除します

※1 水戸黄門：江戸時代の水戸藩主・徳川光圀が日本各地を気の向くままに訪れ、現地でおこなった世直しをえがいた創作物語。

※2 論語：中国の思想書。

※3 ヘーゲル：ドイツの哲学者。

※4 性向：性質の傾向。

※5 専制国家：少数の支配者が国のすべての権力をにぎり、国民を政治に参加させないような国家。

※6 リベラルな：様々な考え方を尊重するような。

※7 学習指導要領：どこの学校でも一定の水準が保てるよう文部科学省が定めている教育課程の基準。

※8 教育勅語：明治天皇の名のもとに発せられた「教育ニ関スル勅語」。勅語とは、天皇が直接国民に対して発した意思表示のこと。

※9 教唆煽動：人を教えそそのかして、気持ちをあおりたて、行動を起こすように仕向けること。

※10 行状：日ごろのおこない。

問一

① ⑤ に当てはまる言葉として最もふさわしいものを次のア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア たとえば イ しかし ウ さらに エ そもそも オ その結果

問二

~~~~部Ⅰ「そつなく」、~~~~部Ⅱ「相対的」について、それぞれ後の問いに答えなさい。

(1) ~~~部Ⅰ「そつなく」の本文中での意味として最もふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア とめどなく      イ ぬかりなく      ウ せわしなく      エ すぎなく

(2) ~~~部Ⅱ「相対的」と反対の意味として最もふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 有機的      イ 相補的      ウ 絶対的      エ 主体的

### 問三

——部Ⅰ「大人になっていく中で私が理解するようになったのは、もつと複雑なことでした」とありますが、「もつと複雑なこと」とはどういうことですか。最もふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 実際の世の中には善と悪の単純な対立構造があるのではなく、善良な人間が悪事に加担している場合や、善意が必ずしもプラスの結果に結びつかない場合がある、といった様々な事象が混ざりあっているということ。

イ 実際の世の中にはテレビに登場するようなヒーローがいるわけではなく、代わりに悪を懲らしめるための機関が複数存在しているが、どの機関がどのような悪に対処するかが明確でないため、実際はうまく機能していないということ。

ウ 実際の世の中は単純に善が悪を成敗して終わるわけではなく、善だと想定される人が法令違反してしまう場合や、善意を抱いた人同士がぶつかって悪が生じる場合のように、悪が終わり無く生じているということ。

エ 実際の世の中は善と悪の単純な二大勢力で構成されているわけではなく、善でもなく悪でもない普

通の人々が少なくない数で存在していることを考えると、少なくとも世の中を構成する勢力は三つ以上あるということ。

#### 問四

——部2「はっきり言いますけれども、万人が納得できる究極の道徳体系なんかなし、当然それを根拠づける理論もありません」とありますが、筆者がこのように考える理由としてふさわしくないものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ある道徳の体系が正当化される根拠を人類の進化に求めたとしても、人類という種の傾向が明らかになっただけでは、社会の変化の中でたえず見直され、更新されている道徳の全てを説明することはできないから。

イ ある道徳の体系が正当化される根拠を有名な思想書や偉大な哲学者に求めたとしても、そこで示される理論は、その理論が成立した時期や場所と異なる状況にある社会では全く意味をなさないから。

ウ ある道徳の体系が正当化される根拠を日常生活の中に求めたとしても、そうして成立した道徳体系に、成立した後の社会を生きる人間が従うべき理由はないから。

エ ある道徳の体系が正当化される根拠を別の道徳体系に求めたとしても、今度はその道徳体系について正当である根拠を探す必要が生じてしまい、原理的にこの作業が終わることはないから。

#### 問五

——部3「われわれが住んでいる日本もリベラルな社会ですから（のほほですよね?）」とありますが、「（のほほですよね?）」に注意しつつ、筆者が日本社会をどのような社会だととらえているか一文で説明しなさい。

〈下書き欄〉

|  |
|--|
|  |
|--|

## 問六

——部4「九九や漢字を覚えるのと、道徳を学ぶのとは、まったく異なるタイプの学習です」とありますが、本文においてどのように「異なる」のか説明したものととして、最もふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 「九九や漢字」はそれを学習しなければ生活が立ちゆかなくなるものであるのに対し、「道徳」はそれを学習しなくとも生活が立ちゆかなくなることはない、という点で異なる。

イ 「九九や漢字」はまだ知らないことに向き合う学習方法をとるのに対し、「道徳」はすでに知っていることに向き合う学習方法をとる、という点で異なる。

ウ 「九九や漢字」は小学生のみならず中学生や高校生も守るべきルールであるのに対し、「道徳」は中学生や高校生になると必ずしも守らなくてもよいルールである、という点で異なる。

エ 「九九や漢字」は学習とその実践じっせんに連続性を認めやすい内容であつたが、「道徳」は学習とその実践に連続性を認めにくい内容であつたか、という点で異なる。

## 問七

次のア～エは本文の内容について感想を述べ合っている場面です。このうち、本文の内容について誤まちがった理解をしている生徒の発言を一つ選び、記号で答えなさい。

ア 〈生徒A〉本文にもあった「善人が悪をなす」という状態に自分自身が当てはまっているのか、冷静になって考える必要があることを強く感じました。それにしても、学校における道徳教育のあり方というものがこれほど難しいものなのかということを知ることができて、良い機会でした。

イ 〈生徒B〉その難しさがゆえに、筆者は学校における道徳教育のあり方を語ることにやや抵抗ていこうがあるようですね。「善と善との争い」があることからわかるように、筆者同様「そもそも道徳が必要なのかどうか」を考えるとそこから始めなければならぬということがよくわかりました。

ウ 〈生徒C〉私は「道徳の中身を決めて新しい世代に学習をさせるのは、市民社会やコミュニティの次元で考えていくことだ」という考え方に共感しました。現代の日本はみんなが忙いそがしすぎて、こういったことを考える余裕よゆうがなくなっている印象があるので、とても心配です。

エ 〈生徒D〉道徳教育のあるべきかたちについてみなさんと議論を深めるべく、積極的に時間をつくっていききたいと思います。また、議論の際には、何をどのように前提とするのかをしっかりと決めたいので、安易な主張に飛びつかないよう気を付けて進めていきたいと思います。

〔三〕 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

著作物利用のため本文は削除します

著作物利用のため本文は削除します

著作物利用のため本文は削除します

# 著作物利用のため本文は削除します

※攪拌…かき混ぜること。

問一 〰〰〰部I「当惑した」、II「掛け合って」の本文中での意味として最もふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

## I 当惑した

- ア あることが原因で不利益を被り、不快に感じた
- イ どのように対処したらよいかわからなかった
- ウ 事実を認められないほど深く傷ついた
- エ 心が迷ってしまって、良くないことに誘い込まれた

## II 掛け合って

- ア 宣言して
- イ 反抗して
- ウ 交渉して
- エ 口論して

問二 —— 部1「体中から力が抜ける気がした」とあるが、どういうことですか。その説明として最もふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 学校で文也くんが乱暴なことをしてしまったことを母に厳しく追及されると思ったが、母が強く問い質さなかったことに拍子抜けしたということ。

イ 母に説明を求められて上手く説明ができるかどうか不安に駆られたが、詳細に説明できなくてもよいことに気が付き安心したということ。

ウ 学校で起こった出来事が、思いの外大事になっていることを知り、その件で母を困らせてしまった自身の行動に失望したということ。

エ 文也くんに取り返しのない怪我をさせてしまったかと心配していたが、母の言葉を聞いて安心することができたということ。

問三 —— 部2「母さんは途中まで何も言わなかった」とあるが、その理由として最もふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 陽太が学校で問題を起こしたことは自分の働き方に責任があると考えて、息子に対して申し訳なさがあがり、どのような言葉をかけるべきか迷っていたから。

イ 何も問題を起こさずに充実した学校生活を送っていると思っていたのに、友人を突き飛ばすという問題行動を起こしていたので、その事実を受け入れることができずにいたから。

ウ 陽太に心の負担を掛けないようにしながらも息子に伝えるべきことを伝えなければならぬと考え、このように、どのような言葉をかけるべきか慎重に言葉を選んでいたので。

エ 自宅で陽太が言葉に詰まってしまったのは、これまでの自分の教育方法が悪かったと考えたので、これからどのように息子と関わっていけばよいのか分からなくなってしまうから。

問四 —— 部3「文也のお母さんがかすかに顔を引きつらせる」とあるが、文也の母がそのような表情を見せたのはなぜですか。その理由として最もふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 陽太の母親が文也に事の顛末を話すようにお願いしたことで、息子や自分が不利になる状況を懸念し、このまま互いに謝罪せずにこの件を終わらせたいから。

イ 陽太側からの謝罪で幕引きだと思っていたのに、陽太の母が更に事情を掘り下げようとする態度にいら立ちを覚えたから。

ウ 文也に全面的に非があるが、陽太の母が下手に出てしている状況だったのでこのまま早くこの件をなかつたことにしたいから。

エ 文也のことを守るために陽太の母に言い返したいが、文也が大人の口論を恐れているので、学校での出来事の内容に関しては明らかにしたくないから。

問五 —— 部4「母さんが頂垂れる」とあるが、このときの陽太の母親の気持ちを、陽太の母親の背景も含めて一文で書きなさい。

〈下書き欄〉

|  |
|--|
|  |
|--|

問六 —— 部5「どうして文也くんは、もう痛くないと言いながら、こんなふう泣くんだろう」とあるが、この場面における陽太についての説明として最もふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 文也が文也の母に伝えた内容が事実と異なるために事態が複雑になってしまったのに、原因をつくった文也が同情をさそうように涙を流している状況に戸惑っている。
- イ 陽太の母は陽太と文也の二人に対して公正な態度を取っているのに、文也の母は文也を守ることしか考えていない状況と、それを文也が喜んで涙を流している様子に戸惑っている。
- ウ 陽太の母が文也の母に、他の話まで持ち出して責め立てられている前で、責められているわけでもない文也が涙を流している状況に戸惑っている。
- エ 陽太の母親と文也の母親が互いの息子の過ちについて認めあって和やかに終わるだろうという思いこみが外れて腹を立て、涙を流している文也の様子に戸惑っている。

問七 次の会話は問題文の場面を読んだ生徒が話し合っているものです。次の生徒の会話を踏まえて、後の問いに答えなさい。

生徒A 学校で起きたことを親に伝えることは難しい時があります。

生徒B そうですか？ 私はそのようなことはなく、何でも話をすることができます。

生徒C 羨ましいです。私は家族の顔色を窺って話したいことと話したくないことを区別して  
います。

生徒D 私もCさんと同じです。全てを伝えることはほとんどありません。

生徒A 考え方や振る舞い方は人それぞれですね。先ほどCさんが顔色とおっしゃいましたが、相  
手の様子を窺うときに、他に着目する部分はありますか？

生徒D そうですね、私は相手の **X** 色にも注意を払っています。物語の中でも、感情が動  
くときに様々な様態を見せているようです。

生徒B 確かに物語の中ではそのように読むことができますが、私はそういった相手の変化に合わ  
せて自分を変化させることには抵抗があります。自分の本音をぶつけ合って築き上げてい  
くものが本来の人間関係だと考えています。

生徒C 確かにBさんのおっしゃることもごもっともですが、私のようになかなか本音を口にでき  
ない性格の人もいます。

生徒A 確かにそうですね。物語の中の登場人物たちも本音を口にしていないですね。陽太と母  
との関係、文也と母との関係など顕著に描かれていると思います。

生徒C 私はなかなか本心をさらけ出すことができないので、自分の意見に近い人が傍にいと、  
その人に迎合してしまうことが本当に多いです。

生徒D 確かに「本当はこう思うけど、相手を傷つけたらどうしよう」と考えているうちに話し合  
いが終わってしまった、ということは頻繁に起こります。「誰かが代わりに言ってくれれ  
ば楽なのに」ということは往々にしてありますよね。

生徒A なるほど。この物語の面白さは皆さんのお話の中にあるのかもしれないですね。引き続き読  
み方を深めていきましょう。

(1) **X** を埋めるのに最も適切な言葉を漢字一字で答えなさい。

(2) 右の生徒の会話の様子としてふさわしくないものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 生徒Aは、話題を振った後に司会者的な立場で参加している。

イ 生徒Bは、家族との関係は良好のようだが他の生徒とは意見が合わない。

ウ 生徒Cは、生徒Bに対抗するため生徒Dを取り込みたい。

エ 生徒Dは、効果的に話題を振って議論に厚みをもたせている。